

ひよじ川柳会

広見短歌会

木蓮の花芽わずかにふふみたり氷解けゆく池のほとりに
出合ひたる頃の面影一つだにあらず惚けし夫よ吾が夫
桜見ると出でゆく人らポケットに手を入れしま皆立ち去れり
水上に身をしなはせて宙と舞ふトウーランドットの青き妖精
ひたすらに病む夫思ひ通う道ふと見上げれば桜盛りなり
手づくりの端布で作りし内裏雛赤いもうせん部屋の華やぐ
野良猫は四肢思ふまま伸ばし居り勾配ゆるき屋根の日だまり
夫病みて沈みがちなる日々なれど藤のむらさき今盛りなり
苦の坂を越えれば幸せくるものと吾は信じて強く生き来し
老集い午後のひとときカラオケに満開桜を窓に写して
かんざしのような小さな蓄つけ初めて咲きし庭の小手毬
兄の死に義姉は心も落ちこみてこれからのこと途方にくれる
十四才吾産業戦士なり日給四十五銭なりき
蝶飛ばず鶯鳴かぬ春なりき自然の異変を憂ひ茶をつむ

美しい自然残そう子や孫へ
美しい山の緑に深呼吸
美しい心に触れて立ち直る
美辞麗句並べた後の虚脱感
笑つても泣いても美人さまになる
八方美人やはり抜け目がない動き
真情美心耕す句に触れる
まだ捨てぬ心の隅に夢ひとつ
古里に心を洗う風がある
可愛いから心を鬼にして叱る
心から信じ合つてる嫁姑
つくり笑顔に浮かれて通う縄のれん
行き詰まる時に会いたい話したい
すつきりした顔で出てくる散髪屋
老化防止川柳会へ軽い足
笑顔からちらりこぼれる糸切歯

木蓮の花芽わずかにふふみたり氷解けゆく池のほとりに
出合ひたる頃の面影一つだにあらず惚けし夫よ吾が夫
桜見ると出でゆく人らポケットに手を入れしま皆立ち去れり
水上に身をしなはせて宙と舞ふトウーランドットの青き妖精
ひたすらに病む夫思ひ通う道ふと見上げれば桜盛りなり
手づくりの端布で作りし内裏雛赤いもうせん部屋の華やぐ
野良猫は四肢思ふまま伸ばし居り勾配ゆるき屋根の日だまり
夫病みて沈みがちなる日々なれど藤のむらさき今盛りなり
苦の坂を越えれば幸せくるものと吾は信じて強く生き来し
老集い午後のひとときカラオケに満開桜を窓に写して
かんざしのような小さな蓄つけ初めて咲きし庭の小手毬
兄の死に義姉は心も落ちこみてこれからのこと途方にくれる
十四才吾産業戦士なり日給四十五銭なりき
蝶飛ばず鶯鳴かぬ春なりき自然の異変を憂ひ茶をつむ

山本まつゑ
渡辺キヨ子

越智坂一
武田幸子

高田治子
蛭谷寿子

須藤ヒサエ
渡辺八千代

伊手リツエ
松崎静香

二宮安恵
兵田トミ子

松下啓脩
佐々木登美子

渡辺キヨ子
越智坂一

武田幸子
高田治子

蛭谷寿子
須藤ヒサエ

渡辺八千代
伊手リツエ

松崎静香
二宮安恵

兵田トミ子
松下啓脩

蛭谷寿子